



落花生栽培情報



1. 落花生の基礎知識

- 落花生は南アメリカ原産の植物です。品種にもよりますが、9月下旬から10月にかけて収穫できます。ビタミンEやナイアシン、カリウム、マグネシウム、オレイン酸、リノール酸など、さまざまな栄養が含まれ、少量でも多くのカロリーを摂取できます。
- 落花生の大きな特徴は実のつき方です。一般的な豆は花の付け根に実がつくことが多い一方、落花生は地面に潜った「子房柄(しぼうへい)」に実がなります。
- 落花生は乾燥させてそのまま食べることもできますが、炒ったり茹でたりと、さまざまな方法で味わうことができます。お菓子の材料としても活躍するほか、家庭菜園なら、収穫したばかりの生落花生を味わえることも魅力です。さまざまな落花生料理を楽しみましょう。

2. 落花生(ピーナッツ)の芽が出ない

落花生の種が発芽しない主な原因は「種まき適温から外れている」「種をまく深さ」「多湿や多乾燥」など、種まき方法とその後の管理によるものです。

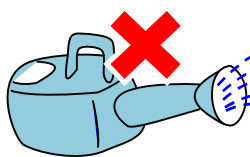
① 落花生をまく時期が早すぎる

適期は5～6月です。そのタイミングでまいてください。

③ 種まき後、毎日水やりをしてしまう

落花生は土が乾燥していると発芽しません！適度な土壌水分が必要です。但し、毎日水やりを続けると地温は低いままで、落花生の種が水分をどんどん吸収して種が腐ってしまいます。

(毎日水やりをしてしまう)



② 落花生の種を土の中に深く埋めすぎている(覆土が多すぎる)

播種の深さは、軽く指で押すくらい(2cm)土に埋まるくらい。播種が深いと(約5cm)、地表が遠すぎて、発芽しない可能性があります。また、播種時の覆土の量が多いと、播種深さと同じく発芽しにくい場合があります。



播種が深い
(約5cm)

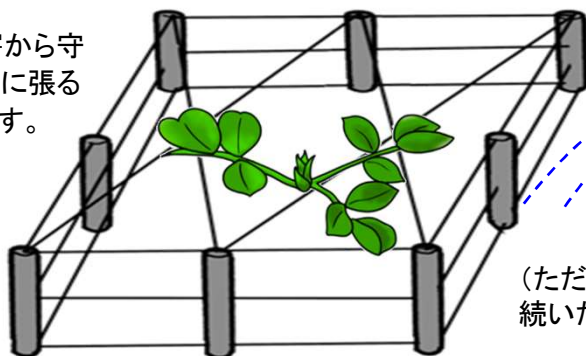
④ 日陰で育てている

土の地温(温度)が高くないといけません。落花生は「照り草」と呼ばれるくらい太陽の光が必須です。1日中日陰に置いていますと地温が上がらないので、落花生は成長しません。

3. 落花生栽培のポイント

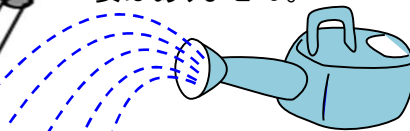
① 鳥害対策

カラスや鳩等の鳥害から守るのに釣り糸を周囲に張るのも効果的があります。



② 水やり

落花生栽培では過湿に注意します。畑での栽培の場合は、降雨に任せ、特別に水やりする必要はありません。



(ただし、雨が何日も降らず乾燥した日が続いたら水をあげましょう)